

令和４年度第１回小牧市立図書館協議会 会議録

日時 令和４年８月１２日（金）
午後１時３０分～午後３時

場所 小牧市中央図書館イベントスペース

出席委員 １３名

伊藤 純子（小・中学校校長会図書担当・陶小学校長）
安藤 亜矢（小牧市小中学校ＰＴＡ連絡協議会代表）
坂廻辺 範子（小牧市社会教育委員）
林 由紀宏（こまき市民文化財団事務局長）
野田 江美子（図書館ボランティア代表）
鈴木 貴子（指導保育士）
家禰 淳一（愛知大学文学部人文社会学科教授）
早 川 渡（愛知文教大学図書館長）
長江 美津子（名古屋経済大学人間生活科学部教育保育学科特任教授）
山田 好広（小牧市社会福祉協議会ボランティアセンター所長）
高 島 昇（公募委員）
舟橋 精一（公募委員）
河村 直子（公募委員）

事務局 中川 宣芳 教育長
石 川 徹 教育部長
伊藤 京子 教育部次長
矢本 博士 図書館長
山 田 久 図書館司書専任担当主幹
花里 千賀子 図書館図書係長
赤 尾 淳 図書館図書係主任

傍聴者 ４名

配布資料

資料１ 小牧市立図書館協議会条例

資料２ 令和４年度図書館年報（令和３年度実績）

資料３ 利用者統計

資料４ 小牧市図書館サービス計画

資料５ 小牧市図書館サービス計画 令和３年度取組結果・令和４年度事業計画

■ 会議内容

開会

【赤尾主任】

ただいまより令和4年度第1回小牧市立図書館協議会を開催いたします。進行を務めます図書館の赤尾と申します。よろしくお願いいたします。

この会議は小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、会議を公開しております。

本日の出席者は12名※であり、委員の過半数の出席により会議が成立していることを報告いたします。なお、傍聴者は4名です。

会議の開催にあたり中川教育長よりご挨拶を申し上げます。

※この時点で不在だった委員1名については会議の途中から出席し、全員の出席となった。

【中川教育長】

皆様こんにちは。教育長の中川でございます。

令和4年度第1回小牧市立図書館協議会の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

皆様方には日頃より図書館運営に格別のご理解、ご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。また、このたびは当図書館協議会の委員就任をお引き受けいただきまして、重ねてお礼を申し上げるところであります。ありがとうございます。

本協議会は、図書館法並びに小牧市立図書館協議会条例に基づきまして、図書館運営や図書館サービスについてご意見を賜る組織として設置しているところでございます。皆さまには7月1日より2年間を任期として、委員をお願いいたしたところでございます。

さて、中央図書館におきましては、開館から1年4か月が経過いたしました。おかげを持ちまして、開館から今日まで大変多くの方々にご利用いただいているところでございます。

特に、中学生・高校生及びビジネスパーソンの方々など、これまであまり図書館をご利用いただけなかった皆様にもご利用いただいていることに、私共本当に嬉しく思う次第でございます。

今後も利用者の声に耳を傾けながら、長く愛される図書館づくりをしてまいりたいと考えております。

委員の皆様方におかれましては、より良い図書館運営や充実した図書館サービス提供のため、ぜひ活発なご議論をいただきまして、忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

以上、簡単ではございますが、私から冒頭の挨拶とさせていただきます。

このあと、どうぞよろしくお願いいたします。

【赤尾主任】

ありがとうございました。

本日は、委員改選後はじめての会議ですので、事務局職員よりごあいさつをさせていただきます。

(事務局職員 各自あいさつ)

【赤尾主任】

続きまして、委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。

委員名簿の順に、伊藤委員よりお願いいたします。

【伊藤委員】

小牧市立陶小学校の伊藤と申します。校長会で学校図書館の担当をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

【安藤委員】

篠岡小学校の母親代表をさせていただきます安藤亜矢と申します。二年間よろしくお願いいたします。

【坂廻辺委員】

こんにちは。社会教育委員の坂廻辺範子と申します。味岡中学校で図書ボランティアをまとめております。どうぞよろしくお願いいたします。

【林 委員】

こまき市民文化財団事務局長の林と申します。よろしくお願いいたします。

【野田 委員】

図書館ボランティア代表の野田江美子と申します。図書館で「おひさまスマイル」というサークルに所属しております。二年間よろしくお願いいたします。

【鈴木 委員】

小牧市役所幼児教育保育課の指導保育士をしております鈴木と申します。よろしくお願いいたします。

【家禰 委員】

愛知大学文学部の家禰と申します。図書館情報学専攻の指導をしております。よろしくお願いいたします。

【早川 委員】

愛知文教大学の早川と申します。現在図書館長をさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

【山田 委員】

小牧市社会福祉協議会地域福祉課ボランティアセンターの山田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

【舟橋 委員】

公募委員の舟橋と申します。小牧の図書館が昭和44年に開館し、中学生の時から利用させてもらってます。よろしくお願いいたします。

【高島 委員】

公募委員の高島昇と申します。よろしくお願いいたします。

【河村 委員】

公募委員の河村と申します。豊山町に住んでおりますが、小牧市で働いております。よろしくお願いいたします。

議事(1)

【赤尾主任】

ありがとうございました。

続きまして、次第2 議事に入ります。

議事(1)「正副会長の選出について」、図書館長 矢本より説明いたします。

【矢本館長】

それでは、議事(1)「正副会長の選出」につきまして、ご説明をさせていただきます。

図書館協議会の正副会長の選出にあたりましては、資料1の図書館協議会条例第4条第1項に「協議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める」と規定されております。

これに基づき、委員の皆様の中から会長及び副会長を選出していただきたいと思います。

立候補やご推薦はございますでしょうか。

【林委員】

はい。

【矢本館長】

林委員お願いいたします。

【林委員】

では僭越ながら、私からご提案をさせていただきたいと思います。

名簿を拝見させていただきますと、会長には愛知大学にて教鞭を取られている、また図書館情報学を専門にしておられるということでもありますので、家禰委員にお願いしてはいかがかと思います。

また、副会長には、こどもの読書並びに学校との連携、そういった観点から、小牧市の小・中学校校長会の図書担当を務めておられます伊藤委員にお願いしてはいかがかと思います。

いかがでしょうか。

【矢本館長】

ただいま林委員より、会長に家禰委員、副会長に伊藤委員とのご提案をいただきました。ほかにご提案はございますでしょうか。

(発言なし)

ほかに無いようですので、それでは会長に家禰委員、副会長に伊藤委員というご提案について、ご賛同いただける方は、拍手をお願いします。

(一同拍手)

ありがとうございます。ご賛同いただきましたので、家禰委員、伊藤委員、お願いできますでしょうか。

(両委員、承諾)

ありがとうございます。それでは会長に家禰委員、副会長に伊藤委員に決定いたしました。よろしくお願いします。

【赤尾主任】

それでは、会長、副会長は前の席にご移動をお願いいたします。

あらためまして、家禰会長よりご挨拶をいただきたいと思います。お願いいたします。

【家禰会長】

愛知大学の家禰と申します。僭越ながら会長を拝命いたしました。よろしくお願いいたします。

私は図書館情報学専攻といって、あまり大学でそういう専攻はないんですけれども愛知大学にはありまして、そちらで学生の指導を行っております。

私の研究テーマというのは電子書籍の流通、あるいはデジタル情報資源、デジタル化された資料、それらの出版流通。そういったところ

が研究課題となっております。それとあわせて、地域連携についての図書館の役割も研究しております。

小牧市の図書館は、ご存知のように2021年3月にオープンしまして、そのあとグッドデザイン賞をいただいたということです。先ほど見て回ったのですが、デザインの的にも優れていますが、さらにICTを活用してソフト面でも非常に優れていると感じました。

そういった所の図書館協議会会長を拝命して非常に緊張して恐縮しておりますが、先ほど教育長がおっしゃられたように忌憚のないご意見を賜りまして、これから小牧の図書館の発展を目指していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【赤尾主任】

ありがとうございました。

これより進行は、家禰会長にお願いいたします。

議事(2)

【家禰会長】

それでは議事(2)について、事務局より説明をお願いいたします。

【花里係長】

それでは議事(2)「令和3年度の実績」についてご説明いたします。

資料2「令和4年度図書館年報(令和3年度実績)」をご覧ください。

令和3年度における図書館で実施しました事業の内容や利用者統計、蔵書統計をはじめとする各種統計データ等を記載したものでございます。

資料を事前配布させていただいておりますので、細かな説明は省略させていただき、主な項目を説明させていただきます。

13ページをご覧ください。

(7)に図書館講座・催し等を記載しております。昨年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため多くの催しを中止する中、対策を講じながらこうした催しを実施いたしました。また、中央図書館のイベントスペースにおいては、こまき市民文化財団や市の各課が主催する

イベントを実施いたしました。

27ページをご覧ください。

こちらは各館ごと・資料区分ごとの蔵書点数で、令和3年度末の蔵書点数は548,300点です。

28ページからは、貸出統計を掲載しておりますが、こちらについては資料3で説明をさせていただきます。

資料3の1ページをご覧ください。

施設別の貸出利用者数といたしまして、中央図書館の利用者数が大幅に増加するとともに、その他の館・図書室も増加に転じ、全ての館・室において過去10年間で一番多い利用者数となりました。全体の前年度比といたしましては、2.09倍となっております。

2ページをご覧ください。

こちらは世代別の貸出利用者数です。全世代で前年度比の2倍を超える増加となっております。

3ページをご覧ください。

こちらは施設別の貸出点数です。中央図書館開館による効果から、全ての館において前年度より増加しておりまして、全体の前年度比としましては、1.61倍となっております。

4ページをご覧ください。

4ページは世代別の貸出点数です。全世代で前年度から増加しまして、全体の前年度比としましては、1.65倍となっております。

議事(2)の説明は以上になります。

【家禰会長】

ありがとうございました。

それでは、事務局からの説明に対して、ご意見、質問等がございましたらご発言をお願いします。

なお、今後の取組みについては議事(3)でご意見をうかがうことになりますので、本議事では令和3年度の実施結果についてのみ、お聞きしたいと思います。

それでは、資料2・資料3について発言がある方は、挙手をお願いいたします。

【舟橋委員】

説明の中で資料の20ページにあります施設配本サービスについて、実績を見ると年間5万点以上の利用があります。これの利用の状況、また配本先の施設についてお聞きしたいと思います。

【花里係長】

まず配本についての詳細ですけれども、令和3年度の実績としまして、配本先団体の総数としましては121団体ございました。また、年間を通してご利用いただいた回数としては530回となります。

主な配本先の施設としては市内保育園・幼稚園、小学校4年生から6年生、中学校。また児童クラブや児童館にも配本いたしました。

【舟橋委員】

ありがとうございました。

そのうちの児童クラブと児童館への配本の状況、そこでの利用の仕方を教えて下さい。

【花里係長】

児童クラブ、児童館という形で集計しておりませんので、のちほど回答させていただいてもよろしいでしょうか。

【舟橋委員】

わかりました。

【花里係長】

利用の仕方としましては、先生のご要望などに応じて図書館職員が責任をもって選書をし、希望日にお届けをします。その先で子供たちに自由に本を読んでいただくという流れになっております。

配本資料は最大2か月の貸出しになっています。返却期日が近づいてまいりましたら、またこちらから本を回収に伺いまして、新しい本と入れ替えて引き続き利用いただくものになっています。

【舟橋委員】

ありがとうございました。

紙芝居も多く貸出されているようですけども、配本先のスタッフが読んであげると。そんなイメージですね。

【花里係長】

そうですね。先生が読まれたり、子どもたちで読み合ったりとか、自由に本や紙芝居をご利用いただいていると聞いております。

【舟橋委員】

ありがとうございました。

【河村委員】

新館が開館して多岐に渡るサービスを行っていることを、この資料から読ませていただきました。

8ページについて、これらの事業を行っている職員の数、委託職員も含めて教えて頂けたらと思います。

【矢本館長】

職員数について、正規の図書館職員といたしましては、まず館長と主幹の管理職が2名。その他の正規職員が図書係に5名、施設運営係に3名で計10名おります。また、会計年度任用職員が中央図書館に5名、学校図書館に派遣する学校司書が5名、それからえほん図書館に5名。計15名おります。

委託職員につきましては、中央館、えほん図書館、各市民センター図書室に配置しており、今年度の4月1日現在で計63名おります。朝番・遅番、あと土日もありますので交代勤務をしております。

中央図書館になりますと34名の配置がありまして、このうち約22名が1日のどちらかの時間帯に勤務するという体制です。えほん図書館では8人配属されおり、1日に勤務するのは4名という状況です。

【河村委員】

ありがとうございます。もう一点よろしいですか。

10ページ、予算内訳のところの「図書館施設整備事業」について、令和4年度の当初予算が前年度と比べて2倍強になっているのですが、どういうものに使いますか。

【矢本館長】

こちら事業の名称が「施設整備事業」ということになっておりますが、主に旧図書館の解体工事の費用です。旧図書館解体につきまして、利活用を検討しましたが、なかなか厳しいということで解体する方向に決まり、令和3年度から4年度の2か年で解体することとなっております。その費用として令和3年度が7,500万円ほど、令和4年度が1億6,000万円ほどということになっております。

【河村委員】

旧図書館を解体した後はどういう方向性になっていますか。

【矢本館長】

今は教育財産ということで私共が管理させていただいておりますが、解体後は市長部局の財産ということで保管替えをする予定となっております。今、市の方で検討がされているものとしては公園の調査をしていることが公表されております。

【河村委員】

ありがとうございます。

【高島委員】

資料3について、全国の図書館の利用者数が全国的に減る一方だとニュースで聞いたのですが、小牧の図書館、令和3年度に関してものすごく利用者が増えているということで、本館で言えば新しくなったとか様々な理由があると思うのですが、その他の図書室も過去10年と比べても一番利用者数が多い。小牧図書館ってすごいんだなと思ったのですが、利用者が増えた要因はどういうことなのか教えていただけますか。

【矢本館長】

やはり中央図書館ができて、中高生の皆さん、それから高齢の方とか、これまで図書館を使わなかった方々が「一度は行ってみよう」ということもあったかと思いますが、そういった方にたくさんお越しいただき、好評いただいているということだと思います。

図書館の本は、どの館でも別の館の本が借りられますので、借りるときは中央図書館、返す時は近くの図書室に、ということで中央館以外の利用も増えてきたということかと思っています。

この傾向が長く続くようにしていきたいと思っています。

【家禰会長】

全国的にコロナの時期に閉館したところもあり、利用者数が非常に減ったのですが、昨年度、今年度に至ってだいぶ持ち直しているみたいです。小牧の図書館につきましては、新しく開館されたということで、にぎわい創出というか、今まで利用されなかった方が非常に多く利用されているんじゃないかと思っています。中高生の人たちが非常にたくさん利用しているという印象がありますので、そのあたりも影響しているのではないかと思います。

かなり貸出利用者数の伸びが大きいのですが、滞在型図書館でもありますので来館者数にも重きを置いているところがあります。来館者数は統計として出てますでしょうか。

【矢本館長】

来館者数につきまして、この中央館につきましては入口のゲートで人数をカウントできるシステムになっております。昨年度、1年間で来館者数は68万8,899人です。

旧図書館の、コロナウィルス感染症拡大前の平成30年と比較しますと、だいたい4.7倍から4.8倍という数字になります。

【家禰会長】

来館者数も非常に増えているような状況だと思いますので、開館のコンセプトで非常に成功していると感じました。

【河村委員】

今の話でちょっとお聞きしたいのが、滞在型の図書館で、若い人とか家族とか、みなさんマナーを守って利用している印象を受けます。

新聞などで他自治体の図書館のトラブルを聞きますが、新館がオープンしてからそういうトラブルがあったかどうか、お聞きしたいと思います。

【矢本館長】

大きな事件になりますと、警察沙汰になるというような、館内で暴れている方が捕まるというようなことがありましたが、通常、一般的にトラブルはほとんどありません。

一応、図書館内はにぎわいを創出するということで喋ってもいいことにしております、会話を楽しむぐらいのものでしたら良いですけど大騒ぎするのはいけないので、そういう方には注意させていただいているというぐらいです。

【家禰会長】

その他にありますでしょうか。よろしいですか。

(挙手なし)

それでは意見が出尽くしたようですので、議事(2)については以上で終了とさせていただきます。

次に、議事(3)について、事務局より説明をお願いいたします。

議事(3)

【花里係長】

それでは、議事(3)の「小牧市図書館サービス計画」について説明をさせていただきます。

資料4「小牧市図書館サービス計画」の4ページをご覧ください。

この「小牧市図書館サービス計画」は、市民サービスのさらなる充実と向上を図るため、令和2年度から令和6年度までの5か年計画として、令和2年10月に策定したものです。

このサービス計画の進捗管理を行うために、毎年事業の取組結果と

次年度の事業計画を策定しているところです。

資料5をご覧ください。

「令和3年度の実施結果と令和4年度の事業計画」を取りまとめたものです。こちら資料を事前配布させていただいておりますので、資料についての詳細な説明は省略させていただきます。

本日は、主に資料5の「令和4年度取組内容」に対するご意見や「今後図書館が取組むべき提案」などについてご意見を賜りまして、今後の図書館運営の参考とさせていただこうとするものです。

議事の(3)についての説明は以上です。

【家禰会長】

ありがとうございました。

それでは、資料4・資料5のうち、主に資料5の令和4年度の実施内容に対するご意見と、今後の取組内容についてご提案をいただきたいと思っております。

ご意見ありませんか。

【林委員】

資料5の8ページ、雑誌スポンサー制度の導入ということでありまして。こういった取組みは他市の図書館などでも積極的にやられているものかどうかをお伺いします。

2点目として、12ページ「よりみちシネマの開催」ということで、令和3年度実施されたがコロナの関係で実施回数が少なかったということで、令和4年度は中止となっております。その後はやめていく方向なのかどうかお聞かせいただければと思います。

【矢本館長】

雑誌スポンサー制度については他市でも取組まれているものです。ただ、あまり多くの図書館ではされていないものでございまして、やはり新しく来館者が多い図書館はスポンサーが集まるのですが、昔ながらの図書館は逆に事務の方がかかることもあって行われている所が少ないということです。私共の図書館につきましては今年の3月末の段階で19社50誌、かなり多くのスポンサーについていただいて

おりますので、大変うれしく思っております。

続きまして、よりみちシネマにつきましては、コロナウイルスの関係で映画というのが厳しい状態というのと、映画会を実施する場合はまさにこの場所(イベントスペース)で部屋を仕切って行いますが、なかなか映画を楽しみに来る方が少ない状況です。いま当館では市民活動団体と協力していろんなイベントを実施しているのですが、基本的には可動壁を全部開けた状態で、オープンな形で活動の様子とか学びの様子を皆さんに見ていただけるということをテーマにしているところではあります。

仕切られた空間での映画会にあまり来館者のニーズがないという状況ですので、全くやらないというわけではないのですが、「よりみちシネマ」という定期的なものとしては中止したいと考えています。

【山田委員】

映画会に関して、小牧社協では今もふれあいセンターで月に1回映画会を開催しております。

大体50人ぐらいお見えになって、コロナの中で人数制限もあるんですが楽しみにしてる方もお見えになります。

コロナワールドからDVDを借りて、予告をして、鑑賞会を地道にやって楽しんでいただいております。駐車場も十分あるものですから、日曜日にそんなこともやって、広報でも予告しております。

【早川委員】

映画会の開催を選択する理由というか、何か方向性みたいなものはあったんでしょうか。

【矢本館長】

「図書館で上映しても良い」という許諾のあるものを購入し、子供向けのものと大人向けのものを用意してやっておりました。

子供向けのものはまだちょっとは観客が入るのですが、大人向けのものはこの場所で2時間となると…。図書館にはたくさん来館者が来るのですが、図書館で映画を観たいかというのと、どうしてもニーズがつかめなかったというような事情があります。

それよりは、いろんな違うイベントの方がみなさんも楽しめるし、たくさん入っても一度には30人から50人が最大なんですけど、多くの方が参加できるということで。

イベントの中で映像資料も合わせて見ていただくということもやっていますので、特段、図書館が選んだDVDをここで流してみんなで観てもらおうというようなことをみなさんが望んでいるかという、無いかなという状況です。

ふれあいセンターさんのようにうまく広報ができていないのかもしれないですけど、そういった状況です。

【坂廻辺委員】

9ページの「子どもの読書活動の推進」のことで、ブックスタートについてお尋ねします。

とても良い試みだと思っておりますけれども、毎年行われる中で選択される絵本がどのように決まっているのか、また定期的に見直しというか更新がされているのか、お尋ねします。

【花里係長】

選書についてはブックスタート事業をやっているNPO団体があり、そこが赤ちゃんに向けてお勧めするブックリストを出しております。その中で司書資格を持つ図書館職員で相談しまして、毎年2冊選んでおります。

見直しについては、毎年新たなおすすめのリストから2冊ずつ、「今年はこの絵本をプレゼントしよう」というかたちで選定して、配布しています。

【伊藤副会長】

中央図書館が開館して、市民にとって本当に利便性が良くて、そして居心地のいい図書館ができたなと実感しています。

今回いただいた資料の中にも、図書館の職員の皆さんが、いろいろな項目にわたって私たち市民が使いやすい状態にしてくださっているのが伝わってきました。

ICT化が進んだということで、先ほど私は本を返したんですけれど

も、(返却ポストに)ポイっと入れたら「あなたはあと2冊借りてますよ」というのを教えてくれて確認ができたという事で、利用者としては本当に使いやすくなりました。そんなに職員の方が多くいらっしゃるわけじゃないとのことですが、職員の皆さんにとってはどうなのかというのを聞かせていただきたいと思います。

それから、学校現場におりますと外国籍の子供たちがとても増えているんですけれども、そういう外国籍の方々への利便性というのはどうなっているんだろうということを教えて下さい。

【矢本館長】

まずICTについて、やはり自動貸出機と自動返却機、それから予約受取棚という3つを入れることによりまして、窓口業務の簡略化が進みました。これは委託業者の業務なんですけど、窓口の職員数を減らすことが出来るということになります。

それから外国籍の方への利便性ということで、こちらにつきましてはパンフレットを5か国語用意して対応させていただいております。

その他、外国語の本も多数揃えております。

【家禰会長】

外国籍の方へのサービスにつきましては、地域にどういった母国語の方がおられるか、その把握が必要と思います。

統計データも出てると思いますが、どういう人が多いかを把握した上で、その方々の母国語の資料を揃えていただけたらと思います。

もう一つ、先ほどの映画の話に戻りますが、愛知大学にメディア芸術という専攻がありまして、映像を作ったりとか写真撮ったりとかするんですけど、その先生が田原市図書館とコラボしまして、「図書館で映画を作る」、いわゆる見るんじゃないくて作る側ですね。図書館が閉まっている時に撮影。台本があって、子どもたちが中心になって作りました。そういう催しも面白いと思います。

もう一つはYouTubeも活用されてますので、映像を流すこともできますし、PRにもなるんじゃないかなと思います。

ほんとは今言いました映像を作成するという勉強をしたい方が多いので、プログラミングのブースが図書館の中にあればいいかなと思

いました。安城の方でもそういった映像プログラミングブースがあり、利用は少なく、そこはPRが必要かと思うんですが。映像の編集をするブースがあると良いと思います。

もうひとつの提案としては、読書関連のイベントですね。ワークショップみたいなもの。ビブリオバトルというのは本当に本の紹介なんですが、少人数で集まってワークショップ形式で自分のおすすめの本を持ち寄ったりしていろんな話をするという。そういうワークショップ形式でやるというのも、ひとつおもしろいかなと思います。

【長江委員】

10ページにあります「キッズライブラの発行」について、「毎月ほとんど発行予定」と書いてありますが、どういうふうに読んでいただく方に伝わっているか、方法を教えてください。

【花里係長】

キッズライブラの内容につきましては、図書館の職員が司書の知識を生かして選定しているというもので、毎月1枚発行しております。1枚について6冊ずつ推薦をしております、低学年向きが2冊、中学年向きが2冊、高学年向きが2冊の6冊を相談しながら決めて推薦するものです。おすすめのポイントも職員が考えて、子供たちに興味を持ってもらえるように作っているというものです。

PRは図書館のホームページにPDFを掲載していますので、いつでもどこでも見ることができ、また印刷したものも図書館や市民センター図書室、えほん図書館にも置いているほか、学校司書を通して小学校にも配布しておりますので、そういった中で読んでいただけるものと思います。

【長江委員】

キッズライブラと書いてあったので対象が小学生かなって思いつつ、右の方は小さいお子さんと書いてあったので、対象年齢がどれくらいなのかというのが疑問に思ったのでお聞きしました。

幼児のお母さんたちに紹介するようなものはございますか。

【花里係長】

このキッズライブラよりもう少し小さいお子さんに向けては、えほんライブラというものがあります。えほんライブラは小さい子向け、キッズライブラは小学生向け、中高生向きはティーンズライブラになりますので、小さい赤ちゃんを育てているお母さんから、中高生まで幅広い年齢層に合わせて発行させていただいています。

【長江委員】

ありがとうございました。

保育園とか幼稚園とか、最近3歳未満児のお子さんの2人に1人はどこかに入園しているような状況ですので、小さいお子さんをお持ちのお母さんだと、どんな絵本を選んだらいいか、たくさん本があってもどれを読んであげたらいいか分からないというお母さんもみえるかなと思います。

ですので、先ほどのブックスタートが絶えることなく続いていくと、子ども達の愛着や情操、情緒の安定にもつながっていくのでいいのではないかなと思います。

【河村委員】

3ページの「新刊本等の紹介」というところについて、私は近くにある北里市民センター図書室を利用させていただいているんですが、本館とか東部市民センターの図書室と比べるとやはり本が少ないというのと、新刊も少ない。キャパシティとかそういうもので仕方がないとは思いますが、やはり本を手にとって読みたいっていう気持ちがあって。提案なのですが、中央図書館なら中央図書館、東部なら東部という固定じゃなくて、新刊本を巡回していただくと図書室を利用した時に他館に入った本も見れるんじゃないかなと思いました。

いろいろ事情があるかもしれませんが、考えていただけたらと思います。

【家禰会長】

どうしても小さい分館とか図書室になってくると本がマンネリ化してきますのでいろいろ工夫を考えます。私も長いこと大阪の堺市立

図書館に勤めておりましたので、新刊とはいきませんが定期的に中央図書館の本を回していくという工夫をそこでやりました。定期的に一定数だけちょっとずつ回していくという感じですね。

本の所在が他館に行くので予約とかもかかってくるし、そういった処理とかが非常にややこしかったかなという点がありました。

【野田委員】

私は図書館の読み聞かせボランティアをやっておりまして、えほん図書館や中央図書館で本を借りることが頻繁にあります。

中央図書館では「あいうえお順」に並んでいますけれども、本が探しづらいなっていう感想がありまして。いつも絵本図書館で探すときは、「主人公が人のもの」とか「主人公が人以外のもの」とか、そういうような区分けになっていて、とても見やすいんですね。あとは果物とか自然科学のものがまとめられていたり、紙芝居についてもそういうカテゴリーで分けてあるので、すごく探しやすいんですけども、中央図書館の並べ方は今のままでしょうか。

【花里係長】

えほん図書館につきましては委員がおっしゃったとおりテーマごとにオリジナルの区分を作りまして、利用者の方に分かりやすい形で示しております。

中央図書館は「あいうえお順」に本が並んでおりますが、やはり一般的な図書館だと、書名や著者の頭文字をとって並べる方法、もしくは出版社の頭文字をとって並べる方法というのが主流となっております。絵本についてもタイトルの頭文字をとって並べるというのが、いま主流です。中央図書館では今後もこの並べ方で排架していくところではありますが、ただやはりより見やすい形で改善していこうということで、ポイントごとにわかりやすいPOPなどを少しずつ作っております。利用者の方に見やすい形で整えていきたいと考えております。

紙芝居については、中央図書館もテーマごとになっているんですけども、なかなかその見出しが見にくい形になっておりますので、これも「あいうえお」を表示したりだとか、POPを作って改善を図って

いるところですよ。

【早川委員】

14ページのWi-Fi環境の整備について、いわゆるフィルターがかかってることなんですが、そのせいで逆に調べられないとか、上手く出ないとか、そういった事例はないでしょうか。

【矢本館長】

30分間で接続が切れる設定をしておりますので「切れないようにして」という要望は来ますが、「何々が見れない」というような話は聞いておりませんので、特に今のやり方で問題はないと考えています。

【坂廻辺委員】

13ページ、「座席予約システムの導入」についてお尋ねします。

土日になると図書館の前に高校生を中心としてすごい行列ができていて、最初は「この行列は何なんだろう」と思っていたら、勉強する場所を確保するために並んでいるんだと知って驚きました。サイレントルームや個人ブースはインターネットで予約できるということになっています。資料の「今後の取組内容」として、「システム修正による改善を行います」と書いてあるんですが、現在の予約状況とか、どんな感じで予約が進んでいるのか教えて下さい。

【矢本館長】

システムで予約できる席は、118席ほどございます。

ただ、実は人気があるのは予約席ではない吹き抜け周りの席でして、そちらのほうの席を取るために行列ができるという状況です。

もちろんサイレントルームが好きな方もいますので、予約も多くされるんですけど、中学校・高校のテスト週間のときにはこれらも満席になるというような状況です。

本日は9時の時点で30人ぐらい並んでいたぐらいですので、特段問題はないというような状況です。

システムについての改善というのは、コロナ対策として予約席を一つ飛ばしにするとか、離れた席で配置するということができなかった

ものですから、二人しかいないのに隣の席になってしまうといったことがありまして、そのあたりの改善をしたということであります。

【伊藤副会長】

先ほどの河村委員のお話ともつながるんですけども、昨年のある会で、市では中央図書館に力を入れて整備をしてきたけれども、やはり味岡、東部、北里の図書室についてもお願いしたいというご意見があったかと記憶しています。

高齢の方からすると巡回バスがあるとはいえ、地元の図書室に行くという方もたくさんいらっしゃると思います。

各図書室にも整備を拡充していかなくてはいけないということについて、何らか具体的な動きなどがありましたらお聞かせください。

【矢本館長】

先ほどの新刊本の話で申しますと、基本的には蔵書の割合に応じて各図書室にも新刊本が入っております。図書室については容量もありますので、中央館にたくさん新刊本が入るという点については予約をお願いしたいと思います。

また、巡回につきましては週に2便から3便に増やし、中央館の本が早く図書室に届くようになる取組みをいたしました。

また、Wi-Fiにつきましては各市民センター図書室にも導入し、自動貸出機も入れました。なかなか物理的に図書室を拡大することは難しいですが、ソフト面でできることがあれば検討していきたいと考えております。

【家禰会長】

ひとつ私から提案で、地域資料についてのボランティアさんとの連携としてウィキペディアタウンというような取組みがありまして、全国的にやっているところがあります。小牧であれば、この小牧の史跡などについてWikipediaを充実させようという取り組みですね。それを図書館資料という根拠に基づきながら調べて、充実させていこうというものです。図書館とボランティアさんの連携による取組みとしておもしろいかなと思います。

他に何かありますでしょうか。

(挙手・発言なし)

では、意見が出尽くしたと思いますので、議事(3)につきましては以上で終了といたします。

これにて本日の議事はすべて終了いたしました。

進行を事務局の方にお返しいたします。よろしくお願いいたします。

【花里係長】

先ほどの舟橋委員からのご質問で、児童クラブと児童館のご質問があったかと思いますが、集計できましたのでこの場をお借りして回答いたします。

児童クラブについては、市内16か所の児童クラブに配本いたしまして、紙芝居と本を合わせた貸出点数が1万8,556点です。

続いて児童館については、市内7か所の児童館に配本いたしまして、貸出点数が2,240点です。

閉会

【赤尾主任】

ありがとうございました。

事務局より2点、事務連絡を申し上げます。

1点目でございます。本日の会議録を事務局で作成いたします。後日、委員の皆さまへ内容の確認をお願いいたしますので、ご協力をお願いいたします。

2点目でございます。次回の図書館協議会開催予定といたしましては、令和5年2月頃を予定しております。よろしくお願いいたします。

これをもちまして、令和4年度第1回小牧市立図書館協議会を閉会いたします。

ありがとうございました。